

宜野湾高校の生徒達へ（31）

2020.7.28

沖縄県高校総体(2020)がほぼ終わった。今回はサッカー部とアーチェリー部を取り上げる。

サッカー部は、宿敵 那覇西高校と気迫がぶつかり合い、互いの決定機を阻む中、延長戦にもつれ、0対2で敗れた。後日、兼島幸大主将に話を聞いた。

校長：那覇西との対戦前に部員にどのような声かけをしたのか？

兼島：練習試合ではやられていたので、「本大会では楽しみながらもチーム一丸となってやろう！」と。新人大会では主力を欠いていたが、本大会では復帰し、那覇西との差を縮めていると実感した。

校長：ハーフタイムでは、どのようなことを確認したのか？

兼島：「立ち上がりはミスが多かったが、気持ちで負けないでチャンスを逃しても切り替えていこう」と。

校長：全国高校総体が中止になった時、部員にどのようなことを話したか？

兼島：引退した部員には感謝の意を伝え、「お世話になった平田先生をはじめ、スタッフへ恩返しをしよう！」と話した。

校長：主将として、大切にしてきたことや今後の抱負は？

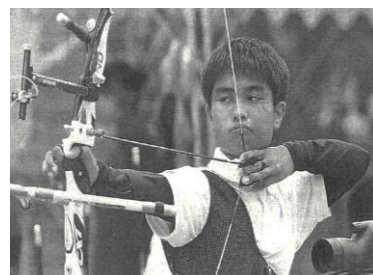
兼島：練習は集中して取り組み、落ち込んでいる部員への声かけや諦めない気持ち、走り切ることを大切にしてきた。このメンバーでできるのも最後なので優勝というかたちで終わりたいけど、それができなかったのだから次の選手権にぶつけて、これからの練習を頑張っていきたい。次は勝つ！



アーチェリー男子個人で初優勝した嘉味田朝成さんについて琉球新報(7/27:一部引用)では、

宜野湾2年の嘉味田朝成は高校総体初優勝を果たし「やっと取れた」と喜んだ。昨年12月の県高校選手権で2位になるなど上位進出を果たしていたが、優勝にはあと一步届かなかった。試合中の緊張が原因だった。だがこの日は絶好調だった。大会前に平日は3時間、休日は8時間を練習に充てた。自信が芽生え、緊張することがなくなった。

全国インターハイはないが、視線は早くも来年に向いている。



また、沖縄タイムス(7/27:一部引用)では、

来年に向け、九州や全国でもトップ層に入る620点台(今回は593点)を目標に掲げる。「実現できるように考えながら、練習やトレーニングに励みたい」と成長を誓った。

本大会で多くの3年生が部活動を引退する。引退した3年生は次の目標に向かって、部活動で培った集中力、体力を存分に発揮してもらいたい。1・2年生は本大会で明確になった自分の、あるいはチームの課題解決に向け、毎日の練習にテーマをもって取り組んでほしい。

私は、校長として部活生が全力で集中して競技に臨む姿を見て、G1生を誇りに思った。また、試合で輝き、自分やチームが力を発揮するためにも毎日の練習がいかに大事であるかも痛感した。本校のキャッチフレーズである「気づき、考え、実行し、振り返るG1生」を意識して実践することが競技力向上に繋がることも確信した。収穫の多い県高校総体であった。大会開催に尽力された関係者に感謝である。

沖縄県立宜野湾高等学校長 津留一郎